

## レイカディア大学 35 期北近江文化学科「さんご座」まちづくり現地研修企画

### 活動テーマ 彦根の暮らしと文化今昔—懐かしき未来を語ろう —昔語りと古写真展&紙芝居—

#### 活動の目的

当学科メンバーの年代（60代～70代）と、現地研修の場となる彦根（なかでも芹橋地区周辺）の住民の多くを占める年代は共通する。この年代が青少年時代を過ごした頃（昭和 20 年代～40 年代）の彦根は、大津に次ぐ県内第 2 の都市として、とりわけ湖東から湖北にかけての中心地としての役割を果たし、文化や地域経済の担い手であった。その頃の彦根はどういう町であったか、そこに住む住民はどういう意識を持ち、どうい生活をしていたか——それらを振り返る。ただ単に思い出話をするだけでなく、その中からこれからの社会や暮らしに生かせるものはないか、すべてに便利で豊かになったいま見失っているものはないか、などを考え、参加者と共有することによって、よりよい未来の社会や暮らしにつなげられないかを考える。そのことが、この地域の住民だけでなく、同年代を生きたわれわれ当学科のメンバーの住むそれぞれの地域や、われわれ自身の未来の活性化につながるのではないか。また、つなげていかなければならないのではないかを考える。活動の目的はそこにある。

#### 活動内容

1. 昔の暮らしを語ろう—あの頃（昭和 20 年～40 年代）の何を次世代に残せるか
  - ・彦根になじみのある古い生活道具の展示
  - ・ちゃぶ台を囲んで古い道具や写真で昔語りサロン(冷たいお茶と懐かしいお菓子をつまみながら)
  - ・芹川のお話（パワーポイントで芹川の変遷などを説明）
  - ・子どもたちと昔の遊びをしよう（福笑い、お手玉、おはじき、パカパカ、など）
2. 懐かしき風景写真展—あの頃（昭和 20 年～40 年代）の彦根はどんな街だったか
  - ・昭和 20 年代～40 年代の彦根の街かど写真の展示（市立図書館所蔵、みんなが持ち寄った古い写真）
  - ・「思い出カード」に展示した写真について参加者の懐かしい思い出を書き込んでもらい、それをもとに話し合う
3. 紙芝居公演
  - ・お子さま向け手作り紙芝居の公演（ひこにゃんの紙芝居クイズ、ひとりぼっちのへび、いたいよう、およげたいやきくん）
  - ・紙芝居の合間に昔遊び（紙鉄砲をつくって遊ぶ）
  - ・「およげたいやきくん」の音楽を流し、みんなで歌う

## プログラムと役割分担

- ・会場準備 9時～12時 (全員)
- ・受付開始 12時30分 (担当は下記当番表)
- ・オープニング 13時 (総合司会 木下、タイムキーパー 奥野先生)
- ・開会の挨拶 13時～13時10分 (小山)
- ・古い写真や生活道具の展示 13時～16時  
(展示品の説明 近藤、大工、福田を中心に、手の空いている者)
- ・第1部 13時10分～14時 子ども向け紙芝居と昔の遊び (紙芝居班)  
(進行役 三國、紙芝居演者 渡邊、北川、小山、昔遊び 藤田)
- ・第2部 14時～15時 昔の生活道具を懐かしむ。芹川のお話 (昔を語ろう班)  
(進行役 北川 芹川の話 宮下、昔遊び 川並、北村)
- ・第3部 15時～16時 ちゃぶ台サロン。古い写真の思い出話など (古写真班)  
(進行役 信澤 お茶、お菓子の接待 川並、北村)
- ・閉会のご挨拶 16時 (信澤)
- ・会場後片付け 16時10分～17時 (全員)

## 当日、受付で来場者に配布するもの

- ・プログラム (裏面に「およげたいやきくん」の歌詞)
- ・芹川の地図、絵ハガキ ・「思い出カード」とクリアファイル

## 広報 (呼びかけ済み対象)

- ・地域住民 (芹橋地区自治会、近隣自治会、子ども会)
- ・協力団体 (辻番所の会)
- ・近隣の学校、幼保育園 (城西小学校、のぞみ保育園)
- ・レイカディア大学 (大学祭でPR, 36期北近江文化学科)
- ・マスコミ (朝日、毎日、中日、近江同盟、滋賀彦根の各新聞)

## 当日の安全対策

- ・熱中症など、暑さ対策について  
救護班の設置 (担当 川並、北村、澤邊、藤田)  
冷たい飲み物 (お茶、ポカリスエット)、おしぼりの準備  
非常時の連絡先 近くの医院は土曜日午後休診。彦根市立病院 (☎22-6050)、彦根中央病院 (☎23-1211) などに救急手配
- ・交通対策  
辻番所付近は一般車などの通行も少ないため、とくに対策の必要はない。

\*当日は雨天決行。午前7時に特別警報が出ている場合は大学の規定により中止

以上